

# 遥かなゲレンデ

平成 30 年 1 月

沼尾 利郎



昔は寒くなかった

## 1 スキーブームは今

1980年代には様々なレジャーが盛んになりましたが、毎年この時期になると今でもよく思い出されるのが友人や医局の同僚たちと出かけたスキー旅行です。日本に本格的なスキーブームが到来したのは札幌オリンピック（1972年）がきっかけと言われており、70年代後半から90年代前半にかけてはスキー人口が一気に増えました。それはバブル経済を背景にした一大ブームであった訳ですが、リゾート法の制定による大型リゾート開発が全国に広がり、高速道路や東北・上越新幹線などの交通網が整備され、スキー用品の低価格化や企業の多角経営によるスキー産業への参入（西武、東急、JR東日本など）、週休2日制の一般化などがその社会的背景にありました。私はこれまで多くのスキー場へ行きましたが、苗場・志賀高原・白馬八方尾根・野沢温泉などの有名な所はどこも超混雑するため、次第に穴場のスキー場（あまり遠くなく混まない所）を探して行くようになりました。なにせブームの頃はリフトやゴンドラ待ちに1時間くらいかかるのは当たり前で、スキー場までの道路もまたすごい渋滞でとにかく大変でした。特に金曜夜の関越自動車道の渋滞は有名で、都内で環八の用賀インターから関越練馬入口までの約15kmに3時間以上かかることもよくあったそうです。それにしても、あの時の熱気は一体何だったのでしょうか？ 観光庁のデータによると1998年（長野オリンピックの年）に1800万人とピークを迎えたスキー/スノーボード人口は、その後は衰退の一途をたどり2013年では770万人（ピーク時の約4割）まで減少しています。レジャーの多様化や景気の影響はあるとしてもスキー人気の低迷は私のような中高年にとっては寂しい限りであり、オワコン（終わったコンテンツ）になってほしくない気持ちで一杯です。



80年代のリフト待ち

## 2 思い出のゲレンデ

混雑を避けて探し回ったマイナースキー場（関係者の皆さん失礼します）の1つに、羽鳥湖スキー場（福島県）があります。ここは雪質も良くてゲレンデも広く、高速リフトで山頂に行けるので長くゆっくり滑ることができました（おしゃれではないがアットホームな雰囲気）。子供たちが小さい頃はよく行ったのですが、標高が高くて風が強いためリフトがよく止まるのとアクセスが良くないのが難点でした。一方、上越の八海山スキー場（新潟県）はできてすぐ（1985年頃）1度だけ行ったことがありました。ピカピカのロープウェイで山頂まで行き、800mの標高差を一気に下るダウンヒル・コースは国内屈指の名コースとして知られています。初級者や子供連れには向かないコース設定ですが雪質も良くすいているので、ガンガン滑りたい人にはたまらないでしょうね。「お酒もスキーも八海山！」という感じでした。

今は亡きゲレンデとして思い出深いのが鶏頂山スキー場（栃木県）です。ここは1つの山にメイプルヒル・エーデルワイス・鶏頂山と3つのスキー場があり、メイプルヒルはカナダ風でスキー専用、エーデルワイスはスイス風でスノーボード中心、そして鶏頂山はファミリー向けだったようです。スキー場入口の鳥居をくぐってからゲレンデに向かい、昔ながらの落ち着いた雰囲気でおじんまりとした所が好きでした。山頂からは日光連山の眺望が抜群で、確かハヤブサコースという急斜面があった気がします。ハンタマ（ハンターマウンテン塩原）ができる前からよく通いましたがバブル崩壊に伴う経営母体の倒産により2000年を最後に閉鎖され、リフトは撤去されて自然林に原状回復する取り組みがとられました。廃線マニアならぬ廃止スキー場マニアにとっては、密かな人気となっているようです。



雪質は最高でも上手くならず

### 3 ベイル・スキーリゾート

1990年代初頭にアメリカ中西部（ネブラスカ州オマハ）の大学に留学した際、隣のコロラド州にあるベイル（Vail）スキー場へ家族で訪れました。ベイルは同じ州のアспенと並び世界的に有名なスキーリゾートですが、日本屈指の規模を誇る志賀高原の約5倍というのですからあきれるほどの広さです。フワフワの極上パウダースノーに豊富なコースレイアウトや無駄なく配置された高速リフト、標高3527mの山頂からは初級者でも滑ってこられる迂回路やゲレンデがあり、まだ小さかった子供たちを託児室に預け夫婦2人でスキーを十分堪能することができました。一方、麓にあるビレッジにはヨーロッパの山岳リゾートを思わせるような（といっても行ったことはありませんが）高級ホテルやおしゃれなカフェ・レストラン・ショップなどが立ち並び、アフタースキーも充実していました。それはまさにベイルのキャッチフレーズの通り、

Once is never enough（1度だけではベイルの良さはわからない）

実に懐の深い（様々な楽しみ方ができる）本物のリゾートでした。





こんな優雅ではなかった…



ベイル（コロラド）

#### 4 ブームから定着へ

80年代のスキーブームに火をつけたのが、1987年公開の映画「私をスキーに連れてって」でした。主演の原田知世の可愛さやユーミンのポップな挿入歌などによりこの映画は大ヒットしたのですが、映画公開30周年を記念してJR東日本はスキー人気再燃を期待した記念イベントやキャンペーンを昨年から展開しています（私を新幹線でスキーに連れてって）。バブル時代の象徴ともいわれたスキーブームでしたが、ボウリングやキャンプなどかつて人気だったレジャーに復活の兆しが最近見え始めており、スキーにおいても子連れ需要（当時のブームを担った世代が親となり子連れで楽しむようになった）やインバウンド需要（北海道ニセコは外国人の長期滞在客が増えている）、リタイア需要（ブームを経験したシニア層が引退後に戻ってきた）など客層や楽しみ方の幅が広がってきたようです。時代や社会の変化に伴うニーズの多様化への確に対応することは、レジャーも医療も同じなのでしょう。国を

挙げて取り組む課題として政府が力を入れている「働き方改革」は「休み方改革」でもあるのですから、かつてのような熱狂的なブームの再来ではなく、多様な人たちが多様なスキーを楽しめるようになることを静かに願っています。



昔は何本でも滑れた



そうだスキー、行こう